防衛大学校本科第１８期学生及び理工学研究科第９期学生
入校式における学校長式辞（昭和４５年４月４日）

本日、土屋防衛政務次官[注(1)]、板谷統合幕僚会議議長[注(2)]をはじめ、多数の来賓各位及び父兄の皆様方をお迎えして、本科第１８期学生及び研究科第９期学生の入校式を挙行いたしますことは、私の心から喜びに堪えないところであります。

第2代学校長　大森　寛

さて、本科の新入生諸君、入校おめでとう。

諸君は長い受験勉強からの解放感と、これから入る未知の世界に対する一抹の不安を抱いていられるでしょう。数日を過ごされた本校の生活は、中学、高校時代の環境とは、かなり違うのではないかと想像いたします。

諸君が本校を志願した動機は、いろいろあるでしょう。本校の実状をよく弁(わきま)え、自衛官になるという堅確な意思のもとに入校された人もあるでしょう。あるいは、そこまで気持ちが固まっていない人もいるかもしれません。しかし、何れの諸君にとっても、本日は永く記憶に残る記念すべき日であろうと思います。

本日は、新しい人生のスタートであるといってもよいかもしれません。スタートをするには目標をもつことが必要です。そこで私は、われわれの人生の目標は如何にあるべきかという問題を先ず取り上げ、次にそれと自衛官の使命との関連についてお話いたしたいと思います。諸君は“Boys be ambitious” という言葉を知っているでしょう。多くの人は、その言葉を述べた“William Smith Clark”についても知っているだろうと思います。しかし、“Boys be ambitious”に続いて、彼が述べた言葉を知っている人は少ないと思います。

彼はこう言っております。

> Boys, be ambitious. Be ambitious not for money or selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the

---

注(1)　土屋義彦

注(2)　板谷隆一海将

attainment of all that a man ought to be.

この意味は、「青年よ大志を抱け、金銭や利己的な拡大強化のためにではなく、また、人が名誉と称する空しいもののためにではない。人として正にそうしなければならないあらゆることを達成するために大志を抱け」ということであります。

“Boys be ambitious”という言葉は、よく青年に対し立身出世をせよ、難事業を克服せよ、という刺激剤としての役割を演じてきました。しかし、クラークの真意はそういうことではありません。“A man ought to be”（人としてそうならなければならないこと）即ち人としての道、人としての正しい生き方を彼は説いているのであります。クラークは、われわれの人生の目標は金銭や栄誉の獲得が目的ではない、人としての正しい生き方にこそわれわれは努力すべきであって、青年はそういう大志を抱けといっているのであります。金銭欲や栄誉欲は、何人も持っているものです。決してこれらを軽視することはできません。しかし、それらの獲得を目標とする人生は、決して正しい生き方ではない。われわれに人生の目標をもっと高いところに持つべきことを教えんとしているのであります。これは諸君の長い人生において忘れてはならない教訓であります。

然らば、そういう生き方をするには、どうすべきかということが問題です。われわれが生きてゆくためには、何等かの職業をもつことが必要です。多くの職業の中で自衛官としての途は、この目的にかなう立派な生き方であると私は考えています。自衛官の使命は、わが国の平和と安全を確保し、ひいては世界の平和と人類の福祉の向上に貢献せんとすることであります。世界の平和は人類の理想です。この理想を追求し、３０数億の全人類の福祉に貢献するということは、極めて崇高な任務であります。金銭のためでなく、栄誉のためでなく、人類の理想の実現のために貴重な生涯を捧げることは、正に人としてそうならなければならない正しい生き方であると思います。こういう重大な使命を有する自衛官としての途は、容易に達成し得るものではありません。長い期間にわたる不断の研鑽努力を要することは言を俟ちません。自衛官は、豊かな人間性に培われた深い教養と高い英知を必要とします。高度の科学技術力を要求されます。また、広い国際的な視野をもつことが大切です。これらの要求に応える努力をすることは、諸君が正しい人生を送るについて寄与するところ大なるものがあると考えます。

本校における諸君の４年間の生活は、将来自衛官として国の防衛に任ずるための第一歩です。この小原台は遥かに富嶽を仰ぎ、紺碧の海をめぐらす別天地です。若い諸君が勉学に、体育に、縦横無尽に活躍する絶好の環境に恵まれています。私は諸君が以上の趣旨をよく理解し、元気にこれからの生活を始められるよう切望してやみません。

最後に研究科の諸君に一言いたします。諸君は自衛隊の部隊、機関等における勤務の経験者であります。勉学の心構え等について今更お話する必要はありません。ただ諸君が勉学の機会に恵まれた陰には、同僚の倍加する負担のあることを忘れてはなりませ

ん。これから２年間にわたる高度の研究をされる諸君には大きな期待が寄せられていることを考え、懸命な努力を払われるよう切望いたします。

　これをもって式辞といたします。